産業廃棄物の目標の達成状況

資料１－３

・平成２７年度における目標値と平成２６年度速報値の比較を表１－３－１に示す。

表　1-3-1　目標の達成状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | Ｈ22年度（実績） | Ｈ27年度（目標） | Ｈ26年度（速報） |
| 排出量 | １，４５０万ｔ | １，５６５万ｔ | １，４８３万ｔ |
| 再生利用率 | ３２％ | ３５％ | ３３％ |
| 最終処分量 | ４７万ｔ | ４９万ｔ | ３７万ｔ |

・平成２７年度における目標設定の考え方と平成２６年度速報値の状況について表１－３－２に示す。

表1-3-2　目標設定の考え方と平成２６年度の速報値の状況

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分　　野 | | | Ｈ22年度  （実績） | Ｈ27年度  （目標） | Ｈ26年度  （速報） | 主な要因 |
| 発  生  抑  制 | 製造業 | | 排出量２３１万t | 排出量２５２万ｔ  (排出抑制率２％　※1) | 排出量２４２万ｔ | － |
| その他の業種  （上下水道を除く） | | 排出量４２９万ｔ | 排出量４７８万ｔ  (排出抑制率１％　※2) | 排出量４３１万ｔ | － |
| 再  生  利  用 | 建設汚泥の再生利用率 | | 再生利用率７０％ | 再生利用率８２％ | 再生利用率５３％ | ・排出された時点の汚泥は水分を多く含む。排出量が水分量の影響を受け変動し、再生利用率は見かけ上減少している。 |
| 建設混合  廃棄物 | 排出量  削減比率 | －  （排出量２０万ｔ） | Ｈ２２年度比６％減  （排出量１８．８万ｔ） | Ｈ２２年度比２０％増  （排出量２４万ｔ） | ・混合廃棄物の排出量は増加しており、工事現場における分別の取り組みは進まなかった。  ・一方、中間処理施設における中間処理後の再生利用が進んだことにより再生利用率は向上した。 |
| 再生利用率 | 再生利用率４０％ | 再生利用率５５％ | 再生利用率７２％ |
| 建設発生木材の  再生利用率 | | 再生利用率８５％ | 再生利用率９５％ | 再生利用率９７％ | ・燃料等としての再生利用が増加 |
| 製造業の再生利用率 | | 再生利用率３７％ | 再生利用率４４％ | 再生利用率４６％ | ・再生利用しやすい金属くずの排出量が平成２２年度から平成２６年度にかけて増加したこと等により向上 |

※１：製造品出荷額の将来推計を用いて、平成２３年度に平成２７年度の排出量を単純推計した値は約２５７万ｔ。事業者による発生抑制の取り組みの進展により排出量を２％（約５万ｔ）削減する目標を立てた。

※２：建設業の元請完成工事高や各業種の従業員数の将来推計等を用いて、平成２３年度に平成２７年度の排出量を単純推計した値は約４８３万ｔ。事業者による発生抑制の取り組みの進展により排出量を１％（約５万

ｔ）削減する目標を立てた。

＜定義＞

　排出抑制率＝平成２７年度単純推計に対する排出量の削減率

　再生利用率＝（再生利用量）／（排出量）×１００

　排出量 ： 事業場、建設現場等で発生した産業廃棄物の量 （脱水、焼却、再生等の産業廃棄物処理をする前の量）